

曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員
瀬戸口 淳民 氏

俳句

末吉俳句会

校庭を狭しと銀杏散り敷きて
池田 安起徒

雨つぶに足早となる暮れの秋
北村 ヒロ子

黄落と向きあふ吾のさびしけり
児玉 典子

千草俳句会

畦路にみぞそば燃ゆる峡日和
東国原 房子

色鳥の低く飛び交ふ流れかな
児玉 タエ子

踏みこみ木ノ実を拾ふ家族かな
川辺 良彩

大隅俳句会

古城址に異国語のとぶ秋日和
河南 三保

天高し竿一杯に子供服
岩重 みどり

葬りし狸の塚に石落の花
穎娃 晴美

短歌

末吉短歌会

散り敷ける落葉の嵩を鳥は掻き
木立へ深く夕陽は入りぬ
泊 康

湯上りに開く窓より漂ひて
甘く匂へり金木犀は
草野 ミツ子

いちめんの冬のひまわり峡の田に
決め手とならぬ沈黙まどふ
森岡 ちどり

大隅短歌会

急逝せし甥は五十九才とおき日に
あやして寝かせし頃よみがえる
伊勢 タミ子

ペパーミントそこら一面広がりに
摘めば香りが辺りに満ちる
川田 サダ子

すみ透る秋の夕べの月青し
ノーベル賞は郷土出身者
川辺 玉枝

財部短歌会

肺癌の妹の息あらあらし
いつものように優しく笑まふも
井上 澄子

風吹きて畑に立ちこめし朝霧は
散歩の我を包む勢い
児玉 次雄

ふる里の父母眠る丘に佇めば
時は止まりぬ沓き日恋ふる
杉村 リカ

新米のかおりと味の広がりに
自家用米はわたしを包む
祝迫 道雄

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

メガネが無 女房を叱るたや
掛けちよした 古川 一幹

可愛せ娘が 直き放蕩者の
黒眼鏡 鈴木 一泉

新け眼鏡 婆ん欠点だけが
良う見えつ 田代 勝泉

見合写真 眼鏡て見たや
欠点が出つ 森山 厚香

大隅薩摩狂句会

はやぶさは宇宙ずい行たつ
仕事つしつ 神宮寺 素水

辛ん時か人様ん仕事ちや
楽き見えつ 津留 群志

久しか振り帰省い孫達ち
祖母は忙け 太良木 五徳

メールどま出来んで度々
手紙む書つ 新屋 涼子